

1 方針策定の背景と目的

○自然公園の利用形態の変化
(風景鑑賞中心 ⇒ 体験型観光等の利用の多様化)



霧ヶ峰自然保護センターを有効活用し、豊かな自然とふれあうエコツアーリズムの中核拠点へ

2 霧ヶ峰自然保護センターの概要・課題

<概要>

竣工年月	昭和48年8月
所在地	諏訪市四賀霧ヶ峰7718-9
建築面積(構造)	575㎡(RC平屋建)
管理者	県直営(諏訪地域振興局)
利用者数	13,993人(H30)



<主な課題>

- ・ガイド人材と魅力的なエコツアーの不足
- ・一元的な情報発信、受け入れ体制がない
- ・自然体験の機会を十分に提供できていない
- ・展示の老朽化や多言語未対応
- ・認知度が低く、場所が分かりにくい

3 ビジョン及びコンセプト

<ビジョン(目指す姿)>

- みんなが霧ヶ峰の魅力を満喫できる体験やフィールドの提供
- 自然環境保全と観光利用の両立による地域振興への寄与

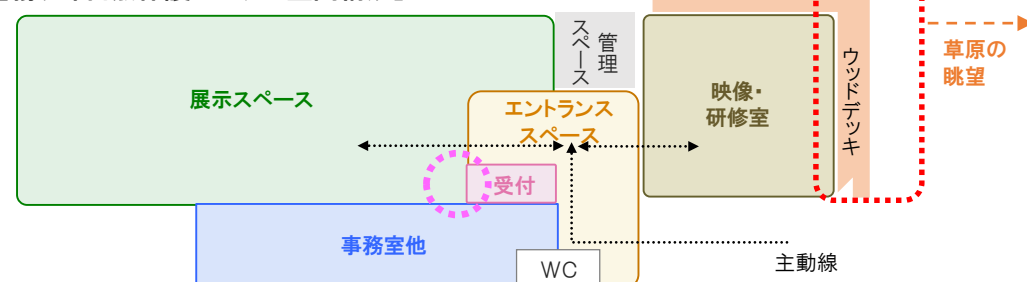
<コンセプト(センターの役割と提供するサービス)>

- ①霧ヶ峰の総合インフォメーション拠点(霧ヶ峰の入り口機能の強化)
◇ワンストップサービスを向上し、利用者をフィールドへ誘う
- ②草原や湿原、人と自然との関わりを学び、体験する拠点(自然体験機能の強化)
◇霧ヶ峰をより深く理解し、より楽しむためのエコツアー・展示の充実
- ③エコツアーリズムや草原再生等の活動・交流拠点(活動・交流拠点機能の強化)
◇活動・交流の場として連携を強化、利用者がくつろげる空間の提供

■従来機能

◇自然公園の利用指導・自然保護・環境教育の拠点

【霧ヶ峰自然保護センター空間構成】



4 機能強化の方向性

① 質の高い自然体験プログラムの提供

- ・民間ガイド事業者と連携し自然保護センターを活用した多彩なエコツアーの展開
<民間活力によるツアーデスクの設置・短時間プログラムの提供>

② 地域総合的な情報発信・提供機能の強化

- ・自然情報に加え、周辺の観光施設・交通・気象等の情報を関係者と連携し提供
<Free Wi-Fiの導入>

③ 霧ヶ峰の魅力を伝える展示等の充実

- ・自然の魅力を学び、楽しむための展示の充実

④ ガイド人材の育成

- ・ガイドを生業の一部とする人材の充実を図り、魅力的なプログラムの開発
<エコツアーガイド養成研修>

⑤ エコツアー関係者の交流・連携体制の構築

- ・エコツアーに関する一元的な情報発信の促進

⑥ センター及び周辺フィールドの整備

- ・自然保護センターへの誘導機能の強化、快適な休憩スペースの提供
<拠点整備の設計>

⑦ 自然環境の保全・再生

- ・魅力的な自然環境の提供(園地の魅力向上)
<ニホンジカの食害防止(電気柵設置)によるニッコウキスゲ等草原植生の再生>

⑧ 近隣施設等との連携

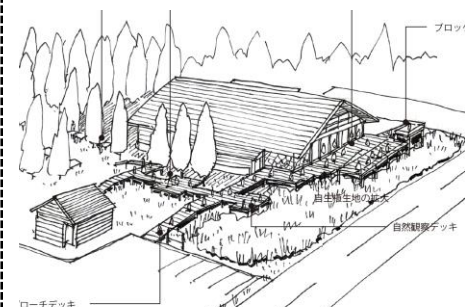
- ・情報提供の連携や相互PRによる回遊性の創出
<モデルコースの設定>

⑨ 多様な主体の参画による管理運営体制の強化

- ・県直営の管理運営体制を見直し、質の向上
<指定管理者制度導入>



施設整備のイメージ



近隣施設を含めた位置図

